

2004 . 10

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

「当たり前前のことから、不思議を作り出せること。世代を問わずいろんな人に喜んでもらえるし、自分も喜びを感じられること。それが手品の魅力ね」。そう話すのは手品を披露するボランティアを続けて十年になる今井さん。月二、三回、保育園や幼稚園、児童会館、老人施設、ホテル、地域のイベントなどで活動しているほか、地方のお祭りに出向くこともあるという。

かねてから趣味の時間を持ちたいと思っていた彼女は、五十三歳のとき、手品教室の門をたたいた。それまで手品に興味があった訳ではなく、通える曜日などの条件を満たしていることが決め手だった。

初めの数年はあまり興味が沸かなかったものの、何事も一度始めたら長く続けるという性分から三年前まで教室に通っていた。途中から「人を楽しませることができたらいい」と、ボランティア活動も開始。気づけば手品が大好きになっていった。

「本番前、お客さんの様子を見て、どの手品をどんな風にやろうか、あれこれ考える時間が一番楽しい」という彼女のモットーは、いかに完璧な手品をするかではなく、いかにお客さんを楽しませることができるとのこと。衣装や音楽、しぐさ、表情などを変えることで違った見せ方



今月の

人

いまい
今井

よしこ
良子さん

(六八)

(東札幌在住)

手品を披露するボランティア

活動を続けて十年

手品の楽しさを多くの人に味わってほしい。そのきつかけづくりができたならうれしいな。

ができる手品だからこそ、客層にあったものを披露できるような工夫する。本番でも多少の失敗は気にしない。また、カードを選ぶなど、観客が参加できる手品を一つは取り入れることにしているという。

「平凡な主婦だった私ができるんだから、手品は器用じゃなくても、何歳からでも始められるもの。興味を持って人にとって自分の姿が活動を始めきつかけとなっていく。だから体力の続く限り頑張るわ」。そう力強く言い切る彼女のステイジはいつも暖かく、たくさんの笑顔であふれる。それは彼女のそんな熱い思いが込められているからこそなのだろう。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236